⑧-2　小柿地区　復興まちづくり計画

対象地域	中神町字小柿

小柿地区は、住まいの再建やコミュニティの再生、農地の復旧、避難路・避難所の見直し等の取組を進めます。

（１）地区の復興まちづくりに向けた主な課題

取組の柱①　被災者のくらし再建とコミュニティの再生

住まいの再建

□住まいの再建における安全性の向上

○暮らしを安定させるための住まいの再建や、まちづくりと連携した住まいの安全性を高める方策の検討が必要です。

地区別懇談会での主な意見
・20 世帯中、3 世帯が地区外に移転した。
・山は危険で将来が心配。子どもは帰って来るか分からず、住むかどうかも同様。将来は移転も考える必要がある。
・修理は概ね完了し、公費解体が残っている。
・4 世帯は大柿方面、小柿の低地に位置し現地再建が難しい。

コミュニティの再生

□コミュニティの再生と公民館の再生

○現地再建する世帯と移転する世帯がいる中で、コミュニティの維持・再生を図ることが必要です。

地区別懇談会での主な意見
・4 世帯が移転予定、現在 16 世帯。高齢化も進んでおり、将来コミュニティを維持できるか心配。
・公民館横の水田の地権者より、地区へ寄付する要望がある。
・小学生を自由校区（または西瀬校区）にできれば良い。大柿地区の子どもと集団登校をしていたが、現在は小柿地区の１人となったため、車で送迎している。

取組の柱②　力強い地域経済の再生

なりわいの再建

□農地の復旧と農業の継続

地区別懇談会での主な意見
・農地（２ha 程度）は流木などで手付かずの状態。
・公民館横の水田に、公民館のガラスが入っている。

取組の柱③　災害に負けないまちづくり

避難対策

□避難ルートの改良

地区別懇談会での主な意見
・県道人吉水俣線に危険な箇所がある。早急に復旧してほしい。
・県道人吉水俣線上の大柿に向かう道沿いの山部がシラス台のために大雨で毎年崩れ、大柿方面に避難できない。

□緊急避難場所・避難所の整備

地区別懇談会での主な意見
・高齢者が多く、地区の高台の所に避難施設があると良い。
・公民館に避難してもテレビもなく情報を入手する手段が無い。
・公民館が被災して畳からフローリングになり寝る時が辛い。
・小柿谷の増水時は、自主的に公民館へ避難している。
・三日原団地を避難場所として利用することができれば両地区の住民が利用できて良い。
・三日原団地は入居を停止し、何軒かは現在も入居中である。

□安全な避難方法の確立

地区別懇談会での主な意見
・指定避難所は中原小・西瀬小のどちらか明確にしてほしい。
・昨年の水害時には午前２時に全員避難が完了した。
・毎年、自主避難訓練を行っている。

治水・土砂災害対策

□治水対策

地区別懇談会での主な意見
・球磨川の支流や用水路に溜まっている流木の処分が問題。
・左岸側には雑木林のように木が茂っており不安。
・小柿谷の川にある橋の下に大きな岩があり、流れに支障がある。梅雨や台風に耐えられる対策をして欲しい。

□治山対策

地区別懇談会での主な意見
・小屋のある場所の斜面が崩れ、現在はビニールシートがかけてある。梅雨に入るため、工事がいつ行われるのか、不安。
・小柿谷の上の所が崩れて来て、現在は大きい土のうが５つほど応急処置として設置されている。砂防ダムの下流の部分のため、心配である。土砂崩れが心配。

□防火対策

地区別懇談会での主な意見
・水路は防火用水ではないが、水が流れない時もある。大福という店の横には水利が無い。
・球磨川に河川の管理道路があるが、現在は土砂が溜まっていて吸管が届かないため要望したい。

（２）課題解決のための取組

【復興まちづくりの目標】

小柿公民館を拠点としてコミュニティを再生する復興まちづくり

地区の主な課題	取組方針	具体の取組
住まいの再建における安全性の向上	住まいの再建における安全性の向上	安全性を高める住まいの再建方法の誘導
コミュニティの再生と公民館の再生	コミュニティの再生と公民館の再生	コミュニティの再生と公民館の再生
農地の復旧と農業の継続	農地の復旧と農業の継続	農地の復旧と農業の継続
避難ルートの改良	安全な避難路の整備	安全な避難路の整備
緊急避難場所・避難所の整備	避難所の見直し・機能拡充	避難所の見直し・機能拡充
安全な避難方法の確立	自助共助の避難体制の構築	防災情報の伝達機能強化 地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成
治水対策	流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下	流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下
治山対策	治山対策	治山対策
防火対策	防火対策進	防火対策

取組の柱①　被災者のくらし再建とコミュニティの再生

住まいの再建

取組方針１：住まいの再建における安全性の向上

・現地での住まいの修復や再建など、早急な生活再建を図るとともに、治水対策の状況も踏まえ、嵩上げや集団移転など安全性の向上を図ります。

具体の取組
□安全性を高める住まいの再建方法の誘導 ・建物１階のピロティ化、浸水深以上の居室の確保。 ・建物構造の耐水化。

コミュニティの再生

取組方針２：コミュニティの再生と公民館の再生

・観音様、供養塔、公民館内の神社等の地域資源や公民館を活かした地域づくりとコミュニティの再生を進めます。

具体の取組
□コミュニティの再生と公民館の再生 ・小柿地区内の組・班の編成の見直し。 ・公民館や地域資源を活かした地域づくり。 （従前から神社の祭りなどで住民が集まる機会は多い。）

取組の柱②　力強い地域経済の再生

なりわいの再建

取組方針３：農地の復旧と農業の継続

・治水対策の状況を踏まえつつ、農地の復旧、営農形態の見直し等による農業の継続を図ります。

具体の取組
□農地の復旧と農業の継続 ・農地等災害復旧事業。 ・営農形態の見直し。（集落営農、営農法人等。）

取組の柱③　災害に負けないまちづくり

避難対策

取組方針４：安全な避難路の整備

・高台や避難所への安全な避難路の整備を進め、特に県道人吉水俣線の早期復旧とガードレール設置を図ります。

具体の取組
□安全な避難路の整備 ・高台への避難路の整備・拡幅、沿道の急傾斜地の対策。 ・三日原団地へのアプローチ道路の拡幅・歩道の整備

取組方針５：避難所の見直し・機能拡充

・指定避難所・自主避難所の見直し、コロナに対応した避難所の分散化、避難所の機能強化を図ります。
・避難所は中原小学校から西瀬小学校または三日原団地に見直しを行います。
・地区の高台に緊急避難場所・避難所を整備します。

具体の取組
□避難所の見直し・機能拡充 ・指定避難所・自主避難所の見直し。(中原小学校及び西瀬小学校) ・三日原団地を避難所として整備。 ・公民館裏の山に命だけは守る緊急避難場所（高台）の設置整備。

取組方針６：自助共助の避難体制の構築

・避難情報の確実な伝達を行った上で、町内での共助により要支援者の避難行動を支援する仕組みや体制づくりを進めます。

具体の取組
□防災情報の伝達機能強化 ・各世帯への防災ラジオの配布（市より、令和３年６月から順次配布）。 **□地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成** ・地区の災害リスクを踏まえた地区防災計画の作成。 ・避難のタイミングを判断する地域独自の「きっかけ」。 ・町内支援ネットワークの「サポーター」の仕組みの構築。 ・実際に起こり得る状況を想定した、地区単位での避難訓練の実施。 （小柿谷が大雨時に氾濫し、毎年数回公民館に避難している） ・球磨川の水位ではなく小柿谷の水流を避難の判断基準とする。

治水・土砂災害対策

取組方針７：流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下

・上流から下流、集水域から氾濫域までの治水対策を総合的に取り組みます。

具体の取組
□流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下 ・流水型ダム整備、市房ダム再開発、田んぼダム、河道掘削、遊水地整備等。

取組方針８：治山対策

・小柿谷等の斜面崩壊箇所の復旧を進め、小柿谷の砂防ダムの適正な管理を行います。

具体の取組
□治山対策 ・小柿谷等の斜面崩壊箇所の復旧。 （災害復旧事業による法面保護・斜面安定等） ・小柿谷の砂防ダムの適正な管理。 （砂防堰堤の定期的な浚渫、上流部での森林保全など治山事業との連携）

取組方針９：防火対策

・消防用水利（消火栓、防火水槽）の整備を行います。

具体の取組
□防火対策 ・消防用水利の強化（消火栓、防火水槽等の整備）

小柿地区　復興まちづくり計画　【地区整備方針・避難ルート図】